



ロコモティブシンドローム  
(ロコモ、運動器症候群)の認知度を高めロコモを予防し県民の健康寿命が伸びるよう取り組んで行きます。



整形外科医会 会長  
松元 悟 先生

質問 1. 整形外科医会会長に就任されてからこれまでを振り返ってみてどのような感想をお持ちでしょうか。

前会長の知念弘先生（大浜第一病院 院長）から整形外科医会会長就任の依頼があった時、正直困惑しました。「何で自分なの？」…。知念先生が言うに「事務方がしっかりしているから大丈夫ですよ！」…とのことで引き受けました。本当にそうでした。事務方がしっかりしていて多数の講演会・行事等無事に熟す事ができました。ただ知念先生が教えてくれないことがありました。（本来なら教えられなくとも自覚するべきことだと思いますが。）今回のように文章を書くことが多くなりました。これからも会員の皆様の力添を載せ整形外科医会の発展に寄与したいと思っております。

質問 2. 整形外科医会における最近の話題などをお聞かせ頂ければと思います。

私は現在ほとんど手術場に入りませんが骨折治療に用いる固定具に目覚ましい進歩がみられます。整形外科外来では痛みに対する治療が主になりますが、NSAID's 以外に慢性疼痛・末梢神経疼痛に対応する薬剤の登場、また、アセトアミノフェンの多量投与が可能になりました。NSAID's 潰瘍の発生が減少するものと思っております。

質問 3. 本県では県民一体の健康づくり活動「健康おきなわ 21」が推進されておりますが、整形外科医会として健康長寿沖縄を目指して特に取り組まれていること、また課題・展望等がありましたらお聞かせ下さい。

健康長寿沖縄を目指し現在整形外科医会として特に取り組んでいるのは「骨と関節の日」（10月8日）を県民の皆様知って頂き整形外科の治療内容に理解を求めながら運動器疾患の予防・治療を行っております。

そのため「ロコモティブシンドローム（略称：ロコモ。和名：運動器症候群）」の認知度を高める活動をしています。厚生労働省が2013年からはじまる国民の健康づくり運動「健康21（第2次）」において国民への認知度を2012年の17%から10年後に80%まで上昇させるという数値目標を認定しました。2013年の認知度は約27%になっています。県整形外科医会は「骨と関節の日」について新聞紙面座談会を沖縄タイムス、琉球新報両紙で掲載し、市民公開講座も開催しています。県民の皆様には「ロコモ」を認識して、要介護の状態に陥らないようにして頂き、県整形外科医会今後も県民の健康長寿が伸びるよう取り組んでいきたいと思っております。

**質問 4. 県医師会に対するご要望等がございましたら、お聞かせください。**

県民の健康寿命を伸ばすため、メタボリックシンドロームは内科、ロコモティブシンドロームは整形外科と縦割りの取り組みでなく、医師会全体で横断的に取り組むことが出来るとよいと考えます。

**質問 5. 大変お忙しいとは思いますが「日頃の健康法」・「趣味」・「座右の銘」等がございましたらお聞かせください。**

多忙ではありませんが日ごろ気を付けていることはエレベーター、エスカレーターを使用しないようにしています。出張の時も空港の動く歩道や駅のエスカレーターは使用しないようにしています。

趣味はジョギングです。以前は通勤ジョギングをし、ナハマラソン・トライアスロン等にも出ていました。最近では、気が向いた時に30分から1時間くらいスロージョギングをしています。酒については言及しません。タバコは小さい頃から興味がありません。

座右の銘と言うものではありませんが「明日は毎日来る！」と考えるようにしています。本日落ち込んでいても、明日になれば良くなるんだと思うようにしています。

この度はお忙しい中、ご回答頂きまして、誠に有難うございました。

インタビューアー 広報委員 照屋 勉

